

第5回 環境専門委員会議事録要旨

1. 日時

平成20年12月25日(木) 14:00~17:10

2. 場所

名古屋会議室 名駅西口店 第4会議室

3. 出席委員

委員長 大東憲二

委員 上砂正一、 姜永根、 坂部孝夫

4. 委員以外の出席者

石原産業 (事業者)

石原化工建設、森本工産 (安全管理および調査担当会社)

5. 議題

- (1) 全域調査フェーズ1・地歴調査結果報告
- (2) 工場全域調査 ボーリング調査等 調査進捗状況の説明
- (3) BSサイトの健康リスク調査について
- (4) その他の情報連絡

6. 議事概要

(委員長の議事進行)

委員長の指示により傍聴者入室

(1) 全域調査フェーズ1・地歴調査結果報告

・資料1、および資料2に基づきパワーポイントを用いて説明。(石原産業)

過去の災害事例等 履歴調査結果の報告

地歴資料への年代付記 [資料1]

戦争・台風・地震等 工場の被災状況 詳細情報 [資料2]

(専門委員) 被災の復旧方法(瓦礫の処分方法や処分地)については、操業以外の土壌汚染の原因となるので調査をしておくべきである。

(石原産業) それに関しても一応調査したが、今のところ記録が見つからない。

(石原産業) 1972年の台風20号当時に勤務されていた方によると、工場敷地内はかなりの部分が舗装されていたと記憶されている。台風時は舗装地を含む工場の殆どの場所が冠水し、土砂が堆積した。土砂はどこかに一時保管しただろうが、それをどこかに処分した記録は残っていない。

(専門委員) 四日市空襲当時の従業員が存命しているか? 米軍の空襲の爆弾・不発弾の調査結果はあるのか?

(石原産業) 当時の従業員の消息の情報は未だ無い。空襲の爆弾・不発弾の記録はあまりない。

(石原化工) 名古屋方面で官庁関係の基礎工事をする場合は不発弾調査を要する地域があるらしいが、四日市にはそのような事例はない。

(専門委員) 台風での浸水被害があった事は、工場内の物質が敷地外の海域に流出し、海底に沈下した可能性があると思われる。

(専門委員) 工場周辺海域の海底浚渫の際に有害物質が検出された場合には、上記が原因の一因である可能性が考えられる。

(専門委員) 台風の被災状況から、流出した原材料の場所や量の記録があれば良い。

(専門委員) 今回の報告で工場内の履歴状況がよく判った。フェーズ1調査は以上で終了とする。

(2) 工場全域調査

・パワーポイント資料に基づき説明。(森本工産)

ボーリング調査等 調査進捗状況の説明 [参考:資料3]

地点、地質、水理状況の報告、および分析の進捗状況について

(専門委員) C-9 地点で油分が検出されたとの事だが成分は何か?

(森本工産) ベンゼン、キシレン等 BTEX については計量下限値未満である。

(専門委員) この C-9 地点周辺には油が漏れるような配管等があるのか?

(石原産業) C-9 地点は当社重油タンク周辺である為に、タンク底部からの地下浸透を恐れている。

当ボーリング調査結果を得次第、環境・防災行政に連絡し、指導をおおぎながら、現場の調査中である。今後はボーリング調査という点的な調査だけでなく、追加で線・面的な調査を開始したい。

(専門委員) その周辺で他に油を溜めてあるような場所はあるのか?

(石原産業) C-9 地点は当社の敷地境界付近であり、且つ当社重油タンク付近であるが、境界外には他社の石油備蓄基地になっている。まずは当社の重油タンクからの影響を確認するのが先決と考えている。

.....
(専門委員) 工場敷地は元々埋立地であるし、先に地下水に干満の時間差があるとの報告あったので、もう少し地下水の調査を進めていけば、地下水がどちらの方向に流れていく可能性があるかが判ってくると思う。

(専門委員) いろんな建屋の基礎杭を伝っての地下水の圧力伝播も考えられる。

(森本工産) 今、石原産業を通じて四日市港管理組合に、工場東側の堤防(護岸)図面の情報開示を求めている。データを沢山集積するので、先生方にご指導を頂きたい。
追加の2深度の公定分析結果は1月末頃判明する。

(3) BS サイトの健康リスク調査について

調査進捗状況、及び措置計画について

大気ガス濃度調査 7 番地点への、DCM(ジクロロメタン)貯槽からの影響

・高濃度(14.2ppm)地点につき 10 月に再計測した結果、低濃度(0.52ppm)であった。

しかし、10 月定期修理の操業停止による影響によるものかを確認する為、今後の操業期間中にも再計測してから報告したい。

作業環境測定状況について

・前回報告以降、DCM を使用して操業をしていないので新たな調査・報告事項なし。

健康診断状況について

・健康診断(86名)を実施したが、結果が未集約なので集約完了次第報告する。

・特殊健康診断(検尿、血液検査、問診)なので、半年毎に実施している。

・今回以降、検査項目を追加した。

土壌ガス調査 高濃度検出地点の機構説明・ヒアリング [資料4]

ヒアリング、アンケート調査(勤続20年以上36名)を実施。

高濃度地点の周辺には、ヒアリング調査から下記の事項が判明した。

注) EDC ; 1,2-ジクロロエタン MDC ; ジクロロメタン (DCM)

・焼却対象ドラムの置き場になっていた。ドラムの中には、EDC,MDC 等の物質が含まれ、それが保管中に漏洩、裸地であった為、土壌汚染が引き起こされた可能性がある。

・ストレーナーの掃除時に EDC,MDC 含みの排水がこぼされ、それがコンクリートやアスファルトの亀裂から土壌へ浸透し、汚染が引き起こされた可能性がある。

・タンクより漏洩し裸地であった為、地下浸透された。また、近傍の排水溝に破損があり、そこから MDC を含んだ排水の地下浸透が引き起こされた可能性が高い。

・しかし、これらの地下浸透の恐れのある排水溝や裸地は平成 18 年以降順次コンクリート等で補修を実施し、現在は新たに地下浸透をしている可能性は無い。

(専門委員) 今回のヒアリング調査等によって予備調査(表層ガス調査)結果が正確であった事が判った訳だが、そこでボーリング調査等今度どうやっていくかを検討する必要がある。
(石原産業) VOC 汚染は第2 難透水層迄で留まっているとの調査結果であるから、ボーリング調査は高濃度地点付近9 地点を5 m の深度で実施する(6 地点は12 月実施済み、残る3 地点は1 月実施予定)。これ以外に、1 月には周囲8 地点のボーリング調査を実施する。
(森本工産) 調査地点は、高濃度地点は150mm、周囲の地点は50mm の観測井仕様になっている。

.....

(専門委員) 漁協からの反応はその後どうか？

(石原産業) 地元自治会から問合せがある。

(専門委員) 地元から汚染状況の開示を求められた場合は、汚染調査の結果が、自然災害で海域への汚染物質の流出、自然由来的な有害物質、他社からの汚染物質の流入等の原因がいろいろなものが考えられる。それら汚染の状況、メカニズムを解明して、それをきちんと説明することが、リスクコントロールとして大切である。

(4) その他 情報連絡 等

・場内での調査報告(条例に基づく調査について)

危険物倉庫、酸化チタン表面処理タンクの建設案件に係わる土壌調査の着手に関する報告

以上、公開審議の終了について委員長宣言。傍聴者は退出。

7. 連絡事項、事務的事項

1)工場全域調査 ボーリング調査等 調査進捗状況、スケジュールについて

2)委員会及び議事録の公開、非公開の原則について

3)業務契約の締結について

4)その他

第6回委員会開催日 2月上旬予定

会議終了(17:10)

以 上